

## 編集後記

私たちの関心のあり方は、現在の私たちを取り巻く状況からの刺激を絶えず受け、変容していく。そして、状況の変化はすみやかである。「占領」や「開拓」の「記憶」を問い合わせることは、「見失われた過去」を正しく取り戻すということを意味しない。むしろ、何が・何を・どのように「記憶」たらしめ、あるいは「記憶」たらしめないのかを問うべきだろう。つまり、「記憶」の地政学であり、「記憶」の修辞学である。現在の私には、なぜこうした関心を抱くのか、整理してその全体を説明することは難しいが、説明可能な部分の余剰のジャンルでは、「研究ノート」と分類するのがふさわしいかも知れず、著者からもそのよう示唆いただいたのだが、『声なき民』を代理表象することの困難<sup>アボリア</sup>について書かれたこの論考は、他の特集論文に対する応答ないし問題提起としてきわめて重要なと思われた。そこで、編集部の判断であえてジャンル分けせず特集枠で掲載することとした。尾西氏をはじめとする各執筆者および読者諸氏のご賛同を得られれば幸いである。

本特集の趣旨は「はしがき」にある通りだ。

第二号は特集「占領と開拓の〈記憶〉」として六本の論考を掲載した。このうち三本は依頼によるもの。快く応じて下さった尾西氏、下岡氏、小泉氏に感謝申し上げたい。尾西氏にはサンパウロでの体験や思想を自由に綴ついていただきたいとお願いした。誰よりも早く届いた文章は、学生や日系移民の方々との交流を語りながら、石川達三の『蒼氓』を読み深めていく魅力的な論考だった。学会誌のジャンルでは、「研究ノート」と分類するのにこそ、現実の状況の中に置かれた私（たち）の生のあり様が刻印されているのではないかとも思う。今回の各論考でも、執筆者が自身の思考の全体像をはつきりとは把握し得ていないところもあるかもしれない。そのことは論文としての弱点には違いない。しかし同時に、その場所こそ、他者との対話が開かれていくポイントでもある。忌憚ないご意見を頂戴したい。

会員による一般論文は一本。福岡弘彬氏の

平林初之輔論は、氏のデカダンス文学研究の重要な一部をなすはずである。展覧会レポートは、実際の展示を見た人も、見なかつた人も秋吉氏の報告との対話から新たな思考を紡ぐことができるはずだ。

書評は矢部氏に依頼した。ご自身の台湾生活もからめてと無理なお願いをしてしまったが、「外地」への関心が高まるほどに見えている問題の多さに気づくという指摘もまた特集への応答なのではなかろうか。

資料『蒙古日記』および伊藤氏の解題は、前号の貴司山治特集を引き継いでいる。日記中に生き生きと描かれている人物たちの多くが、その後日本の土を踏むことはなかつた。戦争末期の内蒙の記録として、またプロレタリア作家の文字通り彷徨の軌跡として貴重な資料である。

占領開拓期文化研究会では、次々頁記載の通り、昨年（二〇一三年）から会則を設け、会費制の研究会としてリニューアルした。若手研究者を中心とする研究交流の拠点でありつづけることはもちろん、より広く関心を有する人々の情報交換と研鑽の場としても機

能させたいと考えている。そのためにも、研究者をはじめとする多くの方々のご協力を今後も仰いでいきたい。

現在の研究状況のもとでは、このような無

名の研究誌に時間と労力を割いて文章を書く

ことは「暴挙」に等しい。それより一本でも論考が寄せられたことは「壯挙」ではなかろ

多くレフリ―付きの雑誌に論文を投すべきで

ある。にもかかわらず、多くの力のこもつた

物は次の通り。（順不同）

鳥木圭太著『アリアズムと身体——プロレタリア文学運動におけるイデオロギー』（風間書房）  
内藤由直著『国民文学のストラテジー——プロレタリア文学運動批判の理路と隘路』（双文社出版）  
貴司山治著・伊藤純篇『丹波アリラン——貴司山治小説集』（改訂版、貴司山治net出版）  
同前『ゴー・トップ』初版発禁版翻刻』（改訂版、貴司山治net出版）  
牧野守監修・雨宮幸明解説『プロキノ作品集』（DVD版、六花出版）

うか。論文は論文として今後の批判を待つべきことは当然であるが、やがて鍛磨を経て、それらが各氏の博士論文や単著の一部となつてゆくことを切に願う。

\*

創刊号後記での予告どおり、昨夏から本誌をインターネット公開している (<http://senryokaitakki.com>)。オンライン版では写真がカラーとなり、資料が追加されている。今号でもオンライン版のみ掲載の追加資料を準備している。八月頃の公開予定である。ぜひご覧いただきたい。

\*

この一年間の研究会会員がかわった刊行

第二号編集委員／白井かおり・鳥木圭太・  
村田裕和

\*  
本誌の図版掲載にあたり、伊藤弘子氏（伊藤煮朔）のお世話になつた。感謝申し上げます。



## フェンスレス 第2号

2014年6月20日発行

編集兼  
発行人 占領開拓期文化研究会代表 村田裕和

発行所 北海道教育大学旭川校 村田裕和研究室内  
占領開拓期文化研究会

(〒070-8621 北海道旭川市北門町9丁目)

印刷所 洛西プリント社